

講義名	技術開発論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	持田 信治		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限		
	2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 / 2017年度 商学部 マーケティング学科 / 2017年度 商学部 経営学科 / 2016年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2016年度 人間社会学部 観光学科 / 2016年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2016年度 経済学部 経済情報学科 / 2016年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	53050

### 主題と概要

現代の企業活動を取り巻く状況は複雑となっている。例えば企業外では環境に与える影響の低減化や法規制の強化が進んでおり、加えて企業内では企業統制の強化やコンプライアンスが求められている。更に製造業では顧客ニーズの多様化や製品の販売方法の変化への対応と製品開発、製造、販売に於けるスピードの向上が必須となっている。そして技術は高度化しており、技術を製品化して事業化を実現するためには人と資金と設備を高度に駆使する必要性が増しており、新製品開発プロジェクトの成否は企業経営を左右する。そこで企業は情報処理技術、通信技術を駆使して意志決定の速い体質実現を進めている。そこで本講義では製造業での技術開発、製品製造と販売の流れを中心とした企業活動を資源管理、計画管理、品質管理、情報管理の観点から解説する。本講義の主題は技術開発から見た経営の課題について説明できることである。また、本講義では従来の日本的な製造方法と最近の組み合わせ方法によるものづくりの違いについても説明を行う

### 到達目標

- (1) 企業経営に於ける技術開発の基本的な考え方を身につける。
- (2) 技術開発のポイントを説明できる。

### 提出課題

適宜提示する

### 評価の基準

小テストなどによる平常点と期末試験の成績を評価して成績とする。  
平常点には授業へ参加度（出席・発表）を考慮する。ただし発表と質問については大学の学びは自主性が求められることに鑑み、自主学習の成果が伺える質問や意見について評価する。成績の算出方法の詳細は初回の授業にて説明する。履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。

### 履修にあたっての注意・助言他

- (1) 授業の運用方法、評価基準、受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明する。履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
- (2) 私語、飲食、途中入室、途中退室及び携帯電話の使用は厳禁とし、違反者は厳重に対応する。場合によっては退室を命じることもある。

### 教科書

.プリント資料を配布する。 .

### プリント資料及び参考文献

適宜紹介する

### 授業計画

- 第1回 企業経営を取り巻く環境
- 第2回 工業製品と生産管理
- 第3回 技術と企業経営
- 第4回 知的財産管理
- 第5回 研究開発
- 第6回 製品開発
- 第7回 プロジェクト管理
- 第8回 行程計画
- 第9回 工程管理とEVM
- 第10回 生産方式と生産システム
- 第11回 ヒューマンリソース
- 第12回 バリューチェーン
- 第13回 経営と情報システム
- 第14回 品質管理と標準
- 第15回 企業経営のまとめ

### 予習・復習

シラバスに従った予習と配布された講義内容に基づいた復習を期待する。今回及び前回の講義内容について、小テストを行うこともあるので、授業後に復習を行うこと。また小テストの内容は講義では説明していない関連項目に及ぶこともあるので講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

### 備考